

## 京都盆地における地下構造の三次元解析

## The Three Dimension Analysis of Subsurface Structure in Kyoto Basin

# 土志田 正二[1], 岡田 篤正[2], 竹村 恵二[3]

# Syoji Doshida[1], Atsumasa Okada[1], Keiji Takemura[2]

[1] 京大・理・地球惑星, [2] 京大・理・地惑, [3] 京大・理・地球熱学研究施設

[1] Earth and Planetary Sci., Kyoto Univ., [2] Beppu Geo. Res. Labo., Grad. Sci., Kyoto Univ.

京都盆地は南方を除く三方を山に囲まれた、南北にやや長い盆地である。盆地のへりには活断層が多く見られ、その周辺山地の隆起と、それに伴う山地の浸食による土砂流入、さらには温暖期における海進時の粘土層の堆積など、複雑な作用によって京都盆地は形成されてきた。本研究では、その形成過程を京都盆地全体として考察することを目的としている。

本研究では、京都市（関西地盤情報活用協議会地盤研究委員会）によって行われた地下構造調査データの統計・解析により、地下の地層面の推定を行っている。対象地域は京都盆地とその東に位置する山科盆地である。対象となる地層は、基盤である丹波層群（1.5-2 億年前頃）形成後に堆積したと考えられる堆積層全般である。丹波層群上面より、7 千年万年前頃の中生代白亜紀後期の火成活動で形成された黒雲母花崗岩類、新生代第四紀に形成された大阪層群、低地の地表付近に見られる更新世、完新世に堆積した地層が本研究での対象堆積層にあたる。京都盆地は防災の一環として、比較的密な地下構造調査を行っているため、この研究に適した地域であると考えている。

これらの堆積層面をできる限り精密に推定し、DEM (Digital Elevation Model) の作成を行う。それぞれの層面、そして層面間の相互関係を比較検討することにより、京都盆地の形成過程を考察する。特に次の問題を考察する予定である。

- |    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1. | 京都盆地北西部に見られる基盤面標高が低い地域の形成原因     |
| 2. | 大阪層群に含まれる海性粘土層の北傾斜の原因           |
| 3. | 京都盆地南部に位置し、伏在断層である宇治川断層の活動による影響 |

## 引用文献 :

関西地盤情報活用協議会「新関西地盤-京都盆地-」

関西地盤情報活用協議会「関西地盤情報データベース CD-ROM」